

自動販売機による物品販売の現状と課題

1. 自販機による物品販売の現状

(1) 普及台数及び年間自販金額

現状

- ・平成 15 年末現在の普及台数 552 万 600 台
- ・同年の年間自販金額（自販機を通じて販売された商品・サービスの年間売上金額） 6 兆 9,427 万 9,300 円

推移

- ・普及台数は、ここ 10 年間横ばいで推移 H15/H5 で 2 %の伸び
- ・年間自販金額は、ここ 10 年間堅調に推移 同上 11%の伸び

(2) 諸外国との比較

アメリカ

- ・平成 14 年末の普及台数（米国業界誌調査） 772 万台
- ・同年の自販金額（同上） 410 億 9,322 万 8000 ドル（5 兆円強）

欧州

- ・EU 域内の飲料・食品自販機普及台数（業界関係者推定、以下同じ）400 万台
- ・ドイツ たばこ自販機 85 万台、飲料・食品自販機 30 万台
- ・イギリス 飲料・食品自販機 40 万台

2. 自販機業界が直面する課題と対策

(1) 省エネルギー

- ・日本自動販売機工業会は、他の業界に先駆け自販機の省エネ対策に取り組んできた。
- ・第 1 次消費電力量低減計画 平成 3 年～ 8 年の 5 年間で缶飲料自販機 1 台あたり 20%低減 = 達成
- ・エコベンダーの普及促進 夏場（7～9 月）の電力需要ピーク時（午後 1 時～ 4 時）には冷却装置の運転をストップするピークカット機能を有する。平成 7 年より設置を開始。
- ・第 2 次消費電力量低減計画 平成 9 年～ 13 年の 5 年間で飲料自販機全機種 1 台あたり 15%低減 = 達成
- ・平成 14 年に缶飲料自販機が省エネ法の特定機器に指定 平成 13 年度を基準年とし平成 16 年度までの 5 年間で 1 台あたりの消費電力量を平均 30%削減することが義務化された。

(2) 未成年者問題

酒自販機

- ・全国小売酒販組合中央会は平成 12 年、屋外設置の酒自販機については成人識別機能がついた改良型のみ存続を容認。
- ・順次、改良型への置換えが進んでおり、国税庁の調べによれば平成 15

年4月1日現在で1万4,400台が改良型 = 全体の約3割

たばこ自販機

- ・平成15年5月WHO、『たばこ規制枠組み条約』を採択 = 未成年者が利用できないような措置を講じた自販機のみ容認。
- ・日本たばこ協会、日本自動販売機工業会、全国たばこ販売協同組合連合会が非接触ICカードを利用した成人識別機能付たばこ自販機を開発し、平成15年度に千葉県八日市場市で導入検証を実施。
- ・3団体は、平成16年5月より鹿児島県種子島で非接触ICカードに電子マネーを付与した第2次導入検証を実施中。

3. 未成年者の飲酒防止のための成人識別機能等付き自販機の技術的・経済的可能性

(1) 成人識別機能の種類

運転免許証方式

- ・運転免許証に記載された生年月日を光学的に読取り、自販機に内蔵されたカレンダーで照合し成人か否かを判定する。
- ・未成年者と判定された場合には、機械作動しない。
- ・オフライン。

IDカード方式

- ・酒販店が発行する磁気カードを挿入することにより自販機が作動する。
- ・磁気カードは、運転免許証など生年月日が記載された公的な証明書の提示により成人であることが確認された者のみに発行される。
- ・オフライン。

インターホンカメラ方式

- ・自販機にインターホンカメラを装着し、小売店の管理者が購入者を確認する。
- ・管理者は、音声のやり取りとカメラ画像で購入者が成人であることを確認した場合のみを作動させる方式。
- ・オフライン

センター集中管理方式

- ・自販機に内蔵されたカメラで捉えた画像(顔、成人であることを証明する書類)を管理センターに電話回線等で送信し、成人であることが確認された場合のみ機械が作動する。
- ・センターのホストコンピュータには顔認証機能が具備され、2回目以降は自動的に認証。
- ・オンライン。

非接触ICカード方式

- ・成人情報が記録され非接触ICカードを自販機の読取装置にかざした場合のみ機械が作動する。

- ・ オンライン。

(2) 技術的・経済的可能性

- ・ 上記の 及び は酒自販機に、 及び は酒自販機及びたばこ自販機に、 はたばこ自販機に採用されており、技術的には有効であることが確認されている。
- ・ オンラインタイプの方式では、成人識別機能のほかに販売情報管理、犯罪通報、情報発信などの機能付加が可能である。

以上

自販機普及台数 及び年間自販金額

平成 15 年 (2003) 版

日本自動販売機工業会

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-37-6 新橋田中ビル
TEL. 03(3431)7443 FAX. 03(3431)1967



目次



概況	1
自販機普及台数及び年間自販金額	2
機種別普及状況	3
中身商品別年間自販金額・構成比	3
年別普及台数及び年間自販金額推移	4
米国における自販機普及台数及び年間自販金額	5
自販機普及台数と年間自販金額の日米比較	6

概 況

○普及台数 552万台

平成15年末における自販機及び自動サービス機の普及台数は、対前年比99.9%の552万600台となりました。

普及台数は昭和45年に100万台を超え、その後急速に増加し、59年には500万台を突破しました。しかし、それ以降は緩やかな増加に転じ、ここ10年ほどはほぼ横ばいで推移しています。

主力分野は飲料自販機で、全体の47.3%を占めています。昨年の飲料自販機の普及台数は、清涼飲料機が中身商品メーカーの屋内ロケーション（自販機設置場所）を中心とする積極的な新規ロケーション開拓により2%増となりましたが、コーヒー・ココア等のカップ機、酒・ビール機が大幅な減少となり、全体では0.8%の増加に留まりました。一方、これまで増加傾向にあったたばこ自販機は、喫煙人口の減少等によるたばこの売上減を背景に中身商品メーカーによる自販機展開が見直されたことから0.5%減となりました。また、券類自販機は、乗車券機が自動改札機のカード対応化の進展等により若干減少し、全体で0.7%減となりました。このほかの機種では自動サービス機がほぼ前年並となったものの、食品自販機、その他の自販機はわずかに減少しました。

○自販金額 6兆9,427億円

平成15年（1～12月）における自販機及び自動サービス機によって売られた各種中身商品、サービスの年間売上金額（自販金額）の合計は6兆9,427億4,930万円で、前年比0.5%減となりました。この金額は同年のコンビニエンスストア全体の売上6兆9,624億円とほぼ同額になっています。

主力の飲料分野は、清涼飲料を中心にマーケット全体が弱含みで推移したことなどから、前年比1.1%の減少となりました。たばこ分野は昨年7月からたばこ料金が値上げされたこと、自動サービス分野は病院などでの自動精算機の導入が進んだことなどにより前年比プラスとなりました。また、券類分野は前年並み、その他の分野は微減となりました。

○諸外国の状況

諸外国での普及台数・年間自販金額調査が実施されているのはアメリカのみで、同国の普及台数は約772万台（2002年末；5頁参照）とわが国より約220万台多いものの、自販金額では411億ドル（約5兆1,400億円）となり、わが国の約74%となっています。

また、アメリカにおける機種別構成では、飲料自販機が49.3%で日本とほぼ同じ比率となっているものの、食品自販機が20.6%と日本の2.2%を大きく上回っている点が特長的です。

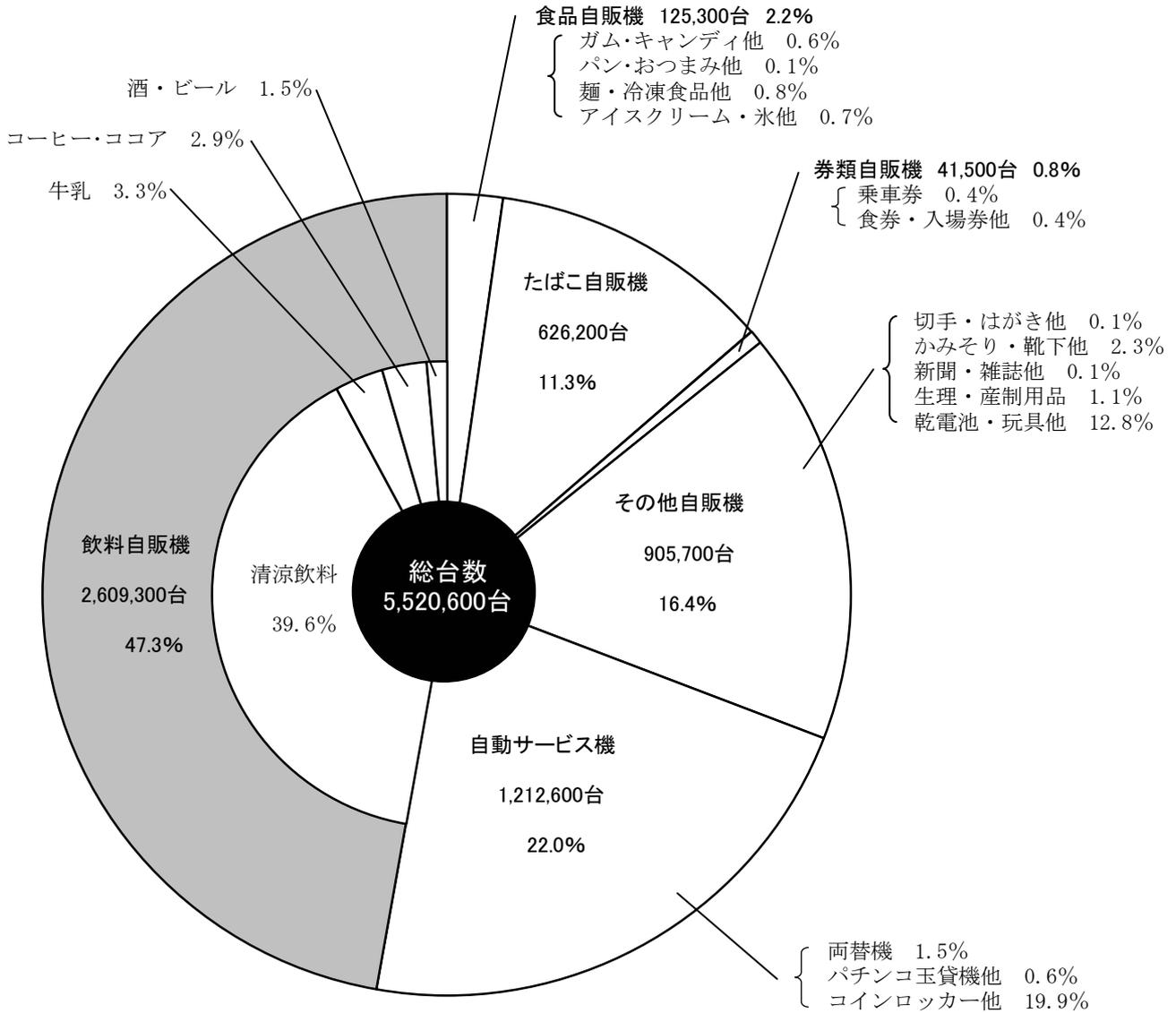
自販機普及台数及び年間自販金額

平成15年12月末現在

機 種	中 身 商 品 例	普及台数 (台)	前年比 (%)	自販金額(千円) (15年1～12月)	前年比 (%)
飲料自動販売機	清涼飲料	2,186,900	102.0	2,246,263,000	100.9
	牛乳	179,700	99.8	172,953,700	98.8
	コーヒー・ココア(カップ式)	158,500	91.8	160,006,200	82.6
	酒・ビール	84,200	91.3	156,379,600	91.3
飲 料 小 計		2,609,300	100.8	2,735,602,500	98.9
食品自動販売機	ガム・キャンディ・チョコレート他	33,700	70.1	5,738,500	70.1
	パン・おつまみ・ポップコーン他	6,000	89.6	2,934,400	89.6
	インスタント麺・冷凍食品・ハンバーガー・米他	45,000	94.9	69,941,800	93.0
	アイスクリーム・角氷	40,600	95.5	17,646,800	93.6
食 品 小 計		125,300	86.6	96,261,500	91.2
たばこ自動販売機	たばこ	626,200	99.5	1,978,410,200	100.1
券類自動販売機	乗車券	20,500	99.0	1,471,668,900	100.0
	食券・入場券・貸靴券他	21,000	99.5	216,104,100	99.8
券 類 小 計		41,500	99.3	1,687,773,000	100.0
その他自動販売機	切手・はがき・証紙	3,200	86.5	5,131,400	90.2
	カミソリ・靴下・チリ紙他	126,800	99.7	42,944,200	99.8
	新聞・雑誌	9,200	97.9	8,571,600	99.1
	生理・産制用品	60,800	99.5	20,981,800	99.2
	乾電池・玩具・カード・写真シール他	705,700	99.9	271,554,900	100.2
そ の 他 小 計		905,700	99.8	349,183,900	99.9
自動販売機合計		4,308,000	99.9	6,847,231,100	99.5
自動サービス機	両替機	83,100	99.9	-	-
	ビデオソフト・パチンコ玉・ゴルフボール貸機	33,200	99.4	-	-
	コインロッカー・コインテレビ・パーキングメーター・ 駐車場精算機他	1,096,300	100.1	95,518,200	100.3
自動サービス機小計		1,212,600	100.1	95,518,200	100.3
合 計		5,520,600	99.9	6,942,749,300	99.5

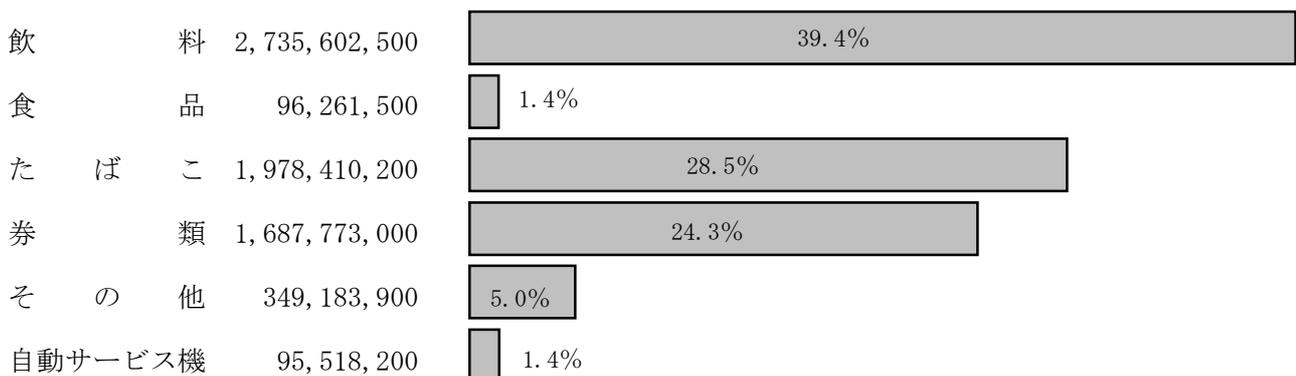
機種別普及状況

平成15年12月末現在



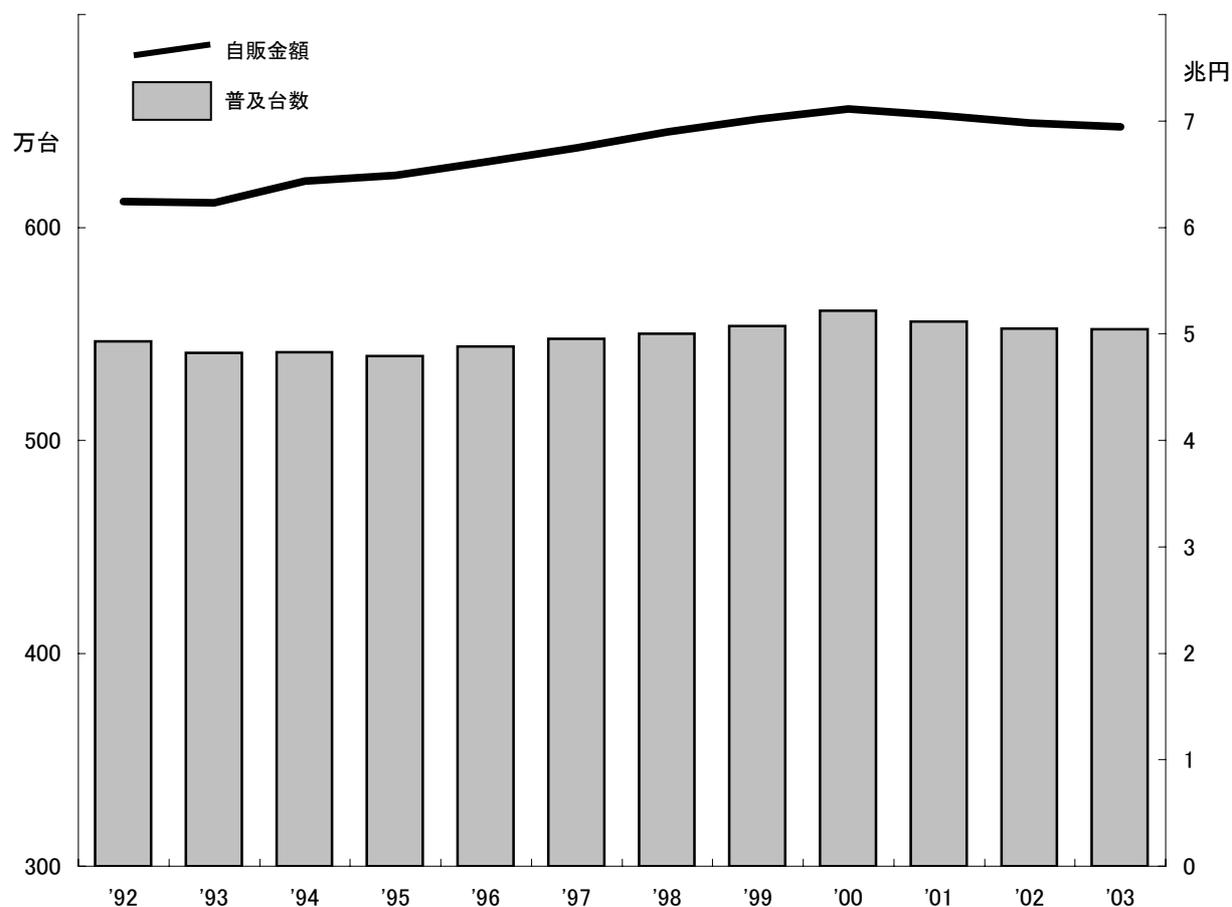
中身商品別年間自販金額・構成比

平成15年1月～12月（単位：千円）



年別普及台数及び年間自販金額推移

年	普及台数(台)	前年比(%)	自販金額(千円)	前年比(%)
'92 (平4)	5,466,110	100.3	6,240,528,321	103.7
'93 (平5)	5,409,430	99.0	6,231,150,901	99.8
'94 (平6)	5,412,460	100.1	6,435,228,108	103.3
'95 (平7)	5,395,660	99.7	6,488,295,457	100.8
'96 (平8)	5,440,570	100.8	6,612,568,860	101.9
'97 (平9)	5,476,290	100.7	6,743,963,020	102.0
'98 (平10)	5,500,400	100.4	6,896,948,870	102.3
'99 (平11)	5,537,500	100.7	7,016,396,800	101.7
'00 (平12)	5,607,500	101.3	7,112,293,200	101.4
'01 (平13)	5,556,700	99.1	7,052,283,600	99.2
'02 (平14)	5,524,700	99.4	6,979,883,900	99.0
'03 (平15)	5,520,600	99.9	6,942,749,300	99.5

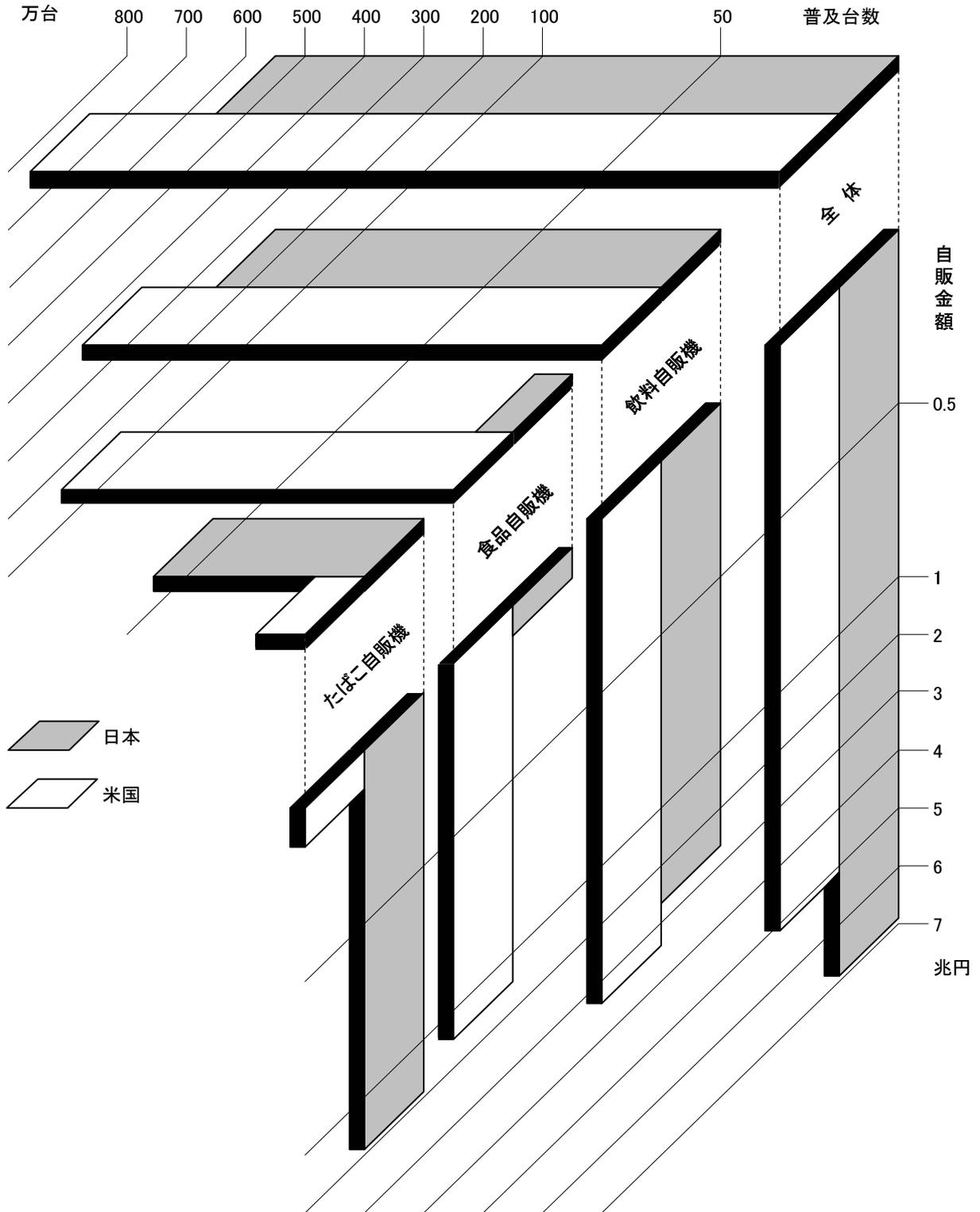


米国における自販機普及台数及び年間自販金額

機種	年	2002年(平成14年末現在)		対前年比(%)		構成比(%)	
		普及台数	自販金額 (千ドル)	台数	自販金額	台数	自販金額
ホットドリンク		340,000	3,900,000	102.4	102.6	4.4	9.5
コールドドリンク(カップ)		162,000	1,900,000	96.4	95.2	2.1	4.6
コールドドリンク(缶)		2,500,000	17,238,000	100.8	97.9	32.5	42.0
コールドドリンク(ビン)		612,000	2,060,000	98.7	97.2	7.9	5.0
ジュース		115,000	810,000	103.6	108.0	1.5	2.0
ミルク		80,000	446,000	97.6	97.6	1.0	1.1
菓子/スナック		1,250,000	8,310,000	101.6	101.8	16.2	20.2
アイスクリーム		115,000	825,000	117.3	124.1	1.5	2.0
ペイストリー		40,000	174,000	93.0	97.2	0.5	0.4
ホット缶入食品		24,000	98,000	92.3	91.2	0.3	0.2
オールパーパス食品		161,000	2,820,000	103.2	102.2	2.1	6.9
たばこ		150,000	1,170,000	97.4	106.4	1.9	2.8
バラもの		2,171,000	392,228	103.3	105.9	28.1	1.0
その他		-	950,000	-	105.6	-	2.3
合計		7,720,000	41,093,228	101.6	100.3	100.0	100.0

注) 米国ベンディング・タイムス誌の調査をもとに日本自動販売機工業会で作成。

自販機普及台数と年間自販金額の日米比較



注) 1. 日本の普及台数・自販金額は平成15年12月末現在、米国は平成14年12月末現在。
 2. 米国の自販金額は1ドル=125円で換算。